

トーク&トーク B

「電子書籍の浸透を阻むものは何か」

10月28日(金) 10:00~12:30 (B会場)

昨年のiPadブームでいよいよ到来かと言われた電子書籍ですが、インフォプロの周りでその利用や効果が積極的に語られている状況ではありません。一方アメリカではすでに公共図書館によっては Kindle を利用した電子書籍の貸し借りを始めている状況であり、日本でも携帯小説や漫画などを中心とした方面で一定の浸透が見られています。一般的に見て電子書籍の浸透自体はやはり時間の問題と見てよいでしょう。

今回、特に企業や大学の研究・開発に観点を絞り、電子書籍の現状を把握しつつ、日本での電子書籍の導入を阻む障壁と、その障壁をどうしたら取り除けるのか、この点を中心とした議論を実務者の話題提供を軸にフロアも交えて行ってみたいと思います。

話題提供者と話題 (50音順)

新井克久氏(シュプリンガー・ジャパン(株))

- ・シュプリンガー・イーブックス世界での普及の現状

シュプリンガーでは2005年以降発行の約40,000タイトルの電子書籍をオリジナルプラットフォーム「シュプリンガー・リンク」上で閲覧可能としています。2005年のリリース当初と比較するとここ2,3年のイーブックス利用の伸びは目覚ましいものがあり2005年コレクションから全分野を導入しているある大学ではシュプリンガーリンク全体の利用の約4割を占めるという事例もあります。本セミナーではシュプリンガーのグローバルマーケットポジションやグローバルの利用傾向等をご紹介します。

入江伸氏(慶應義塾大学メディアセンター本部)

- ・慶應義塾大学図書館における電子学術書利用実験プロジェクト

2010年度から2年計画で進めているこのプロジェクトは、学術出版社 大日本印刷 京セラコミュニケーションシステムと協力し、電子書籍とプラットフォームを開発、実際に学生に利用してもらい評価と要望、動向についての実験を行うものである。

この成果を活用し、国内における学術書籍の電子化を阻害している要因を排除し、電子書籍を推進しようというものである。ここでは、学生の電子書籍の要望や利用動向を中心に報告し、これからの電子書籍プラットフォームの方向を考えたい。

新田英直氏(株)紀伊國屋書店)

- ・NetLibrary を通じた学術図書館への電子書籍浸透の課題

日本語コンテンツの扱いを始めて4年間の経験から見えてきた事。

図書館から期待されるコンテンツと出版社から提供を受かれるコンテンツの隔たりについて。

または、図書館から評価されるコンテンツから予測される、学術系電子書籍の可能性について。

コーディネーター

林和弘氏(日本化学会) / 増田豊氏(ユサコ(株)) /

平野圭子氏(ケンブリッジ・ユニバーシティ・プレス・ジャパン)